



New Partnership

第9号 平成2004年3月1日 安足教育事務所ふれあい学習課

TEL.0283-23-1471 FAX.0283-23-4274 mail:ansoku-kyouiku@pref.tochigi.jp

地域は ^ち ^{いき} 智域

安足教育事務所長 高橋 知俊

「こころの中がもやもやしている。」という子どもたちの問題提起を前号で書きました。そのもやもや解消に大きな役割りを担っているのが「地域」であると考えています。地域あって地域なしといわれてきましたが、今、確かに「地域」が見えてきています。地域が見えるとは、地域の教育力を感じているということです。具体的にいえば、同じ場所に住む大人と子どもたちのかかわり、交わりがあり、子どもたちのための大人の地域の活動（地域づくり）が復活しているということです。

島崎藤村は「人の世に三智がある。学んで得る智、人と交わって得る智、自らの体験によって得る智。」と書いています。今の学校教育は、この三つを重視しています。この三つのバランスが、子どもの健全育成には重要と考えているわけです。子どもを健全に育成するには、昔も今もその基本は同じということです。

しかし、「人と交わって得る智」は、ここ数年の世の変遷とともにむずかしくなってきたことは否めない事実です。学校では人とのかかわりを重視していますが、さらに効果をあげるために、地域の教育力に期待しています。

地域の方々の中でも、地域で子どもを育てようという機運が高まってきました。そのお手伝いとして、本教育事務所ではふれあい学習を展開しているところです。これは県教育委員会の重要施策の一つです。

安足地区には、さまざまな子どもたちのための地域の取組があります。昔から長い期間継続しているもの、最近始まったものいろいろです。それらの取組は、地域の宝である子どもたちの健全育成という目的にとどまらず、地域の高齢者の方々の生きがい、元気アップ、若い人たちの地域のために尽くそうという意欲アップにもなっていて、まさに相乗効果としてあらわれています。

地域にはその地域特有の文化が存在します。それは、地域行事であり、人々の温かさであり、日々の人同志のかかわり、話すことば、生活慣行等さまざまです。地域の人々の生活の中で、日々生きている目に見えるもの、目に見えないものすべてが地域の文化であります。

地域の中で子どもは育つ。別のいいかたをすれば、子どもは地域の中で学ぶということであり、地域の中には、人が学ぶことが多く存在しているのです。このことは子どもに限ったことではないと思います。大人も同様です。

地域は、そこに住む人すべてにとって智域（私の造語）なのです。地域の活性化は人と人とのかかわりの活性化です。本教育事務所といたしましても、そのいきいきとした地域づくりのために、より強力に支援をしていきたいと、15年度の課題をふまえて、次年度の計画を立てているところです。

心ふれあう地域づくりをめざして (6)

所長補佐兼ふれあい学習課長 清水 武治

県内各教育事務所の組織改編により「ふれあい学習課」が発足して、3か年目が終わろうとしています。安足教育事務所ふれあい学習課は、これまで、管内二市二町教育委員会との連携のもと、生涯学習の振興や社会教育の充実、人権教育の推進、生涯スポーツの振興等にかかわる諸事業を積極的に展開して参りました。これらの事業実施にあたり、公私とも大変ご多用なところ参加していただき、極めて熱心に研修してくださいました皆様方に、心からお礼申し上げます。

ある雑誌で、大手生命保険会社の役員を退任し、学校や企業で講演活動を展開している、金平敬之助という方が「虚往実帰」（虚にして行き、実にして帰る）という中国の名言を紹介していました。金平さんが講演を頼まれて喋りにくいのは、大企業の社内で行う講演だそうです。それは、参加する人たちが、ときにそれぞれ「駆り出されたから、仕方なしに...」という表情をしたり、「われわれは、業界のトップ企業だ。いままら、他から教わることもあるものか...」大げさにいうこんな顔が並ぶこともあるからだそうです。前もって、こうだと決めてかかるのが成心、こだわりの心を持たないことが虚心です。心を虚にして行くから、実を得て帰ることができる。「虚往実帰」です。講演会でも、成心の顔が並ぶか。虚心の顔がそろうか。この差によって企業の明日が決まるような気がしてならない。と金平さんは結んでいます。今年、さまざまな研修の機会にお会いした皆様方は、それぞれが前向きに何かを学ぼうとする「虚心の顔」をなされて参加していただいたように感じています。感謝申し上げます。

さて、新年度の事業計画が着々と整ってきました。今年の反省を生かし、参会の皆様方の期待に添えるような内容にしたいと考えております。ところで、最近ベストセラーとなっているのが、養老孟子さんの「バカの壁」です。一読した程度では内容を理解できない程、「バカの壁」に取り囲まれた中で日々右往左往している我が身ですが、「脳の中の係数」というくだりは勉強になりました。

養老さんは、「五感から入力して運動系から出力する間、脳は入力された情報を脳の中で回して動かしている。この入力をX、出力をYとすると $Y = aX$ という一次方程式が考えられる。何らかの情報Xに、脳の中でaという係数をかけて出てきた結果、反応がYというモデル...と説明しています。例えば、プロゴルファーの青木功さんは、みんなが嫌がる雨の日の実績がとても良いそうです。「雨が降って傘の中にいると、外界と遮断され集中しやすいので、雨の日がいい」と考えるそうです。みんなが嫌がる「雨」という情報に対し、青木さんは「集中できていい」というプラスの係数が働き、優勝というYの反応が出てくるという訳です。

国の教育政策が「教育改革」を旗印にしてゆれ動いております。そして、地域社会の人々や保護者の学校教育や社会教育に対する期待と要望は多様化され、益々大きくなって来ております。そして、生涯学習社会の進展とともに、学んだ成果を活用し社会に貢献したいと考える人々の数は年々増加して来ております。このような状況の中にあつて、ふれあい学習課の新年度事業では、新規の「こどもの居場所づくり」プランの展開や「家庭と地域の教育力活性化事業」の推進、「学校支援ボランティア」の活動実践化など、これまで以上にaの係数をよりプラスの指向で、柔軟に多角的に捉えていく必要に迫られると考えておりますので、より多くの皆さんの意見を拝聴しながら諸事業の推進を図っていきたくと考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。

地域と学校の協働によるふれあい学習を目指して

ふれあい学習で地域の活動を活性化しよう

- ふれあい学習ネットワーク各市町別集会より -

「地域で子どもたちの豊かな育ちを支えるためには、私たち大人が力を結集し、地域に「豊かな育ち」のための環境をつくったり地域全体で子どもを育てる意識を高めなければなりません。学校や青少年施設・公民館等と連携しながら子どもたちの体験活動などを支援する体制づくり・地域で子どもたちのことを考える場づくり・地域の大人やこどもが気軽に集い活動できる場所づくりについて考えていきましょう。」というテーマのもと、各市町別集会を開催しました。なお、田沼町については生涯学習振興大会での実践発表を研修としました。



各市町別集会の分散会協議内容

- 佐野市（2月14日 文化会館 77名の参加）
「子どもと共に歩む地域活動をどう進めるか」
- 葛生町（2月5日 文化センター 34名の参加）
「子どもを核にして地域と学校を結びつけよう」
- 田沼町（2月7日 中央公民館 500名の参加）
生涯学習振興大会での北部地区による実践発表
- 足利市（1月29日 市民プラザ 76名の参加）
「ふれあい学習で地域づくりを進めよう」

分散会小グループ協議



管内各地域で進むふれあい学習の成果は ふれあい学習企画委員会・子どものための地域づくり推進連合会議より

3月2日（火）に今年度最後の企画委員会並びに子どものための地域づくり推進連合会議を合同開催しました。今回の協議で確認された成果や課題等（抜粋）は次の通りです。

地域や大人の間で「地域で子どもを育てる」意識が高まってきた。

- 地域の各種団体に積極的に活動に参加していただき、地域の子どものみんなで育てようという意識が高まった。
- 企画委員としての推進や推進地域での実践で、子どもたちのためにやらなくてはならないという意識が強くなった。企画委員や推進地域代表者を含め活動に参加した大人からも「やらなくては」という意見が多かった。

地域の各種団体やサークル等との連携、地域全体での取組など活動が充実し、地域の中で子どもとの関わりが深まってきた。

- 地域でがんばっているボランティアサークル等団体をふれあい学習の推進や子どものための地域づくり推進団体として指定することは、社会的認知度を高めたり団体の活動の拡充につながることで意義あることだと思う。
- 町のレクリエーション協会や中央公民館等の協力が得られ連携して活動を行うことができた。
- 公民館を拠点とし、地域の各種団体と学校の関係がうまくいっていないと活動が成り立ちづらい。

地域の良さを実感し、子どもたちに地域の一員としての意識が育まれてきた。

- 子どもたちに、地域にかかわる様々な活動を体験させることができ、吾妻地区の良さを一層認識させることができた。
- 三重地区の活動に、足利中央養護学校に通う親子がたくさん参加できた。子どもたちにとって、地域の中にゆっくり遊べる場や居場所が必要。地域の皆さんから誘っていただくことが大切。
- 子どもたちが地域のために何ができるか考える場や活動を取り入れたい。高学年の児童や中高生がリーダーシップを発揮できる活動や機会を考えていくことが必要である。





ふれあい学習情報コーナー

「地域の未来をになう子どもたちをみんなで育てよう」～佐野市立犬伏東小地区の実践～



ここ数年、児童・生徒の登下校時や下校後の生活の安全確保が大変難しい時代となっています。全国的には児童生徒の連れ去り事件や不審者に声をかけられたり体を触られたりする等の事件が多発し、佐野市においても例外ではあり得なくなりました。市内の中学生在が自宅前で不審な男に抱きつかれるという事件が発生するに及んで、「これは、子どもを見守る目を増やすしかない」と決断し、栃木県が現在行っている「とちぎの子どもをみんなで育てよう」運動にヒントを得て、地域の町会長、学校評議員、学校安全支援ボランティア、老人会、育成会、PTAの役員と各地区委員等呼びかけて「犬伏東地区の子どもをみんなで育てる会議」を開きました。

第1回目は昨年の10月24日(金)に開催しました。参加した皆さんで「子どもを地域で育てることの意味」「佐野市内における不審者情報」を確認しあった後、「子どもたちの安全を守るために私たちにできることは何か」「子どもたちの健やかな成長のために私たちにできることは何か」等を話し合いました。

その1週間後にはPTAの役員と各地区の地区委員、安全委員が集まって同様の話し合いを行いました。地域の子どもたちを守ろうとする意識は大変高く、会議から2週間後には「地域パトロール隊」を編成して下校時の安全を確保したり、お巡りさんと呼んで地域の安全教室を開き不審者への対処法を学んだりするなど、8町会すべてで何らかの対応策を立て実施しました。また、町会ごとに危険箇所の再点検を行い、情報教育アドバイザーと連携して安全マップを作成し、地域での安全指導に役立てました。



1月23日(金)に行われた第2回目の会議では、各地域の実践発表の後、「地域のみんで楽しむことができる行事」を目指して話し合いが行われました。また、楽しく充実した安全な地域づくりのために、今後も会議を継続することを確認しました。

(佐野市立犬伏東小学校長 関谷秀明)

平成16年度から、文部科学省が未来の日本をつくる心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、地域の大人の力を結集し、子どもの居場所をつくり子どもたちの様々な体験活動や交流活動を支援する「子どもの居場所づくり新プラン」を推進します。

子どものための地域づくりで大切なことは、地域の中で子どもたちが安全に安心して過ごせる環境づくり - 地域の危機管理 - と地域の大人たちが力を結集して地域づくりに主体的に参画していく仕組みづくりです。

家庭教育・子育て支援フォーラム

託児風景



このフォーラムは、子育て支援にかかわる団体、グループやサークル同士の情報交換や交流を進めながら、子育て支援をどのように充実していけばよいのかを考えることを通し、安足地区における家庭教育の浸透を図ることを目的として、開催しているものです。



1部 Let's トーク「私の子育て支援」

様々な立場で子育て支援を展開している団体やサークルのお話をお聞きました。

NPO法人「めだかのがっこう」(佐野市) 子育て支援サークル「エクボの会」(葛生町) 子育てサークル「ミッキーマウス」(田沼町) 未就園児のパパ・ママのくちコミ育児情報紙「足利0123歳」(足利市)



2部 フォーラム「子育て支援の充実を目指して」

全体を4つのブロックに分けて、テーマに沿った話し合いの場(しゃべり場)を設けました。お茶を飲みながら、参加者の手作り名刺を交換し合いながらの充実したひとときになりました。なお、各ブロックの進行役は、2市2町で活躍されている「家庭教育オピニオンリーダー」の方にお願しました。

～ファシリテーター(安足教育事務所ふれあい学習課小池副主幹)のまとめより～

- ・子育てを支援したいという思いは実に様々であるが、社会参加という視点ではどの事例もすばらしい活動である。
- ・本日のフォーラムのように様々な立場の人たちが意見交換ができる、コミュニケーションの場が重要である。
- ・中高生の参加など、子育ての後継者を育てるといった視点も大切になってくる。

フォーラムが終了してもなお、会場のあちらこちらで、話の花が咲いていたようです。

安足地区における家庭教育・子育て支援の輪がさらに広がっていく予感を感じました。

地域で進めるふれあい学習



佐野市では・・・地域全体で子どもを育てる取組 - 吾妻地区 -

吾妻地区では各町会、地域女性会、小中学校PTA、老人会、地区子供会育成会等が主体となり連携を図りながら、地域全体で子どもを健やかに育もうと、ふれあい学習に取り組んでいます。

今年は花いっぱい運動、稲作体験活動、ボランティア活動等15を超える事業を実施しました。吾妻地区の特産品である桃について学ぶ活動では、JA安佐果樹部会員の指導を受けながら楽しく学びました。剪定、受粉、摘果、特に収穫についてはいたみやすい果樹であり、細心の注意をもって収穫作業を行う等、改めて桃づくりの大変さを知りました。

ぼくたち私たちの通学路調べでは、交通事故に合わないよう注意を喚起するストップマークを、子供たちの手で120箇所表示し、さらに立て看板を12箇所PTA会員のご協力を得ながら設置しました。

学校・PTAと連携した「子育て達人の話を聞こう」をテーマにした講演会では、自分は望まれて生まれてきた、生きているだけで100点満点との講師のお話に、参加者一同深い感銘を受けました。

また、1月に実施した三世代ふれあいスポーツ大会では、グランドゴルフ、ゲートボール、輪投げ、竹馬乗りを老人会の指導により楽しみ、特に竹馬乗りでは最初とまどっていた子どもたちも、やがて校庭を自由に歩き回れるようになり、嬉しそうな歓声があちらこちらであがりました。並行してソバづくり・おにぎり・トン汁・まんじゅうづくり・餅つき等も行い、体育館において地域の方々と交流を図りながらいただきました。

これからの事業としてはイチゴづくりを知ろう、かたくりの里づくりが予定されており、地域ぐるみで心豊かな子どもを育てて行く機運の醸成に取り組んでいきたいと思えます。(安足地区ふれあい学習企画委員 亀山 幸男)



田沼町では・・・子どもたちの豊かな体験活動を求めて - 北部地区 -



北部地区ふれあい活動推進協議会では、『心豊かな児童生徒を育てるふれあい活動の推進』をテーマに、18年間地域ぐるみで多田小の学校教育活動を計画に基づいて支援してきました。学校週5日制に伴い、土曜日における子どもたちの様々な体験活動にかかわる支援も行っています。長年の活動を見直し、自治会、公民館、育成会、PTA、学校で話し合いをもち、無理なく長続きする取組を考えました。

メインとなるのは、6月に行う「ふれあいハイキング」です。この活動は、子どもたちに変大人気があり、毎年100名前後の参加があります。昨年は、「みかも山」、今年は、「ぐんまこどもの国」へと出かける場所も変化に富むよう工夫しました。8月に行われた「マイラーニング」では、町教育委員会・田沼高校社会福祉科の協力をいただき、7名の高校生と子どもたち57名が作文、ポスター作成など夏休みの課題解決に取り組み、有意義な時を過ごすことができました。「優しく教えてくれてやる気が出た。」という子ども、「不安だったが、『また来てね。』という言葉がうれしかった。」という高校生の言葉が印象的でした。今年の新たな取組には、リズム感あふれる威勢のよい「よさこい踊り」もあります。田沼在住の大谷さん、地域の4人の協力者の力添えをいただき、夏休み中に練習が順調に進みました。披露の機会を北部地区レクリエーション大会と多田小学校秋季大運動会とし、5・6年生がリーダーとなり取り組む活動へと充実できました。また、「郷土料理を知ろう、耳うどん作りに挑戦!!」も有意義な活動です。親子でいわれについて学び、そして、耳うどん作りに挑戦をする人気のある取組です。

今年は、子どもたちのふれあいが広がった1年でした。今後も子どもたちの豊かな体験のためによりよい地域づくりを推進していきたいと思えます。

(田沼町北部地区子どものための地域づくり推進会議 森戸 正一)